

医療史

◎小川鼎三「医学の歴史」
新村拓「日本医療史」

医療史はなぜ大切か

- 医学の歴史：麻酔、手術、抗生物質等の歴史の進化の上に今日の医療は存在する
- 医療の歴史：医療がお金持ちのぜいたく品から国民の不可欠なインフラへと変化している。

古代の医療

- 魔術師と医師はどう違うのか
 - 魔術: 祈りによって患者をいやすことが中心であり、再現性がない
 - 医学: 経験的に有効である施術を中心として、再現性がある(科学的)
- 医学は科学的に証明されたことを用いて治療を行う

古代の医療水準

- 古代の病因: 悪霊が付いた
- メソポタミア: 病気は悪魔から与えられた懲罰 (宗教的な医師)。黄疸の概念。
- インド: アユルベータという医学書が編纂。神がかりな医療を追放。糖尿病の概念。手術。天然痘の予防。
- 中国: 陰陽道。はり、お灸。
- エジプト: 心臓と血管の働きの確立。最良の治療薬はビール。高レベルな産科と避妊。

初期ギリシャ時代以降

- ギリシャ：解剖学の進歩。人間の生理に関する合理的解釈
- しかし、生命は「土」「空気」「火」「水」からなるという低次元なもの
-
- ヒポクラテス（医聖）の登場：合理的な医学が生まれる

大昔の死因(1)

- 感染症: ペスト、皮膚病、ハンセン病、はしか、コレラ、赤痢、肝炎、狂犬病、マラリア、結核など
- 現在は、栄養の向上、抗生物質の発見により多くの感染症は治るようになってきた。
- 抗生物質、消毒、予防接種による感染症の減少が現代の医療。

大昔の死因(2)

- 戦争による負傷: 傷の感染等も死因につながったと思われる。
- 下痢による脱水: 子供の場合、死亡することも

まとめ(古代から現代へ)

- 古代の医療: 魔術から科学へ
- 感染症の克服へ: 消毒、予防接種、抗生物質
- 脱水の改善: 点滴やORSなど